

埼玉アートシアター通信

SAITAMA ARTS THEATER PRESS



SAITAMA
ARTS
FOUNDATION

(財)埼玉県芸術文化振興財団

2

2006.3-4

蜷川幸雄公開対談 NINAGAWA 千の目

コンドルズ 主宰
ダンサー

(財)埼玉県芸術文化振興財団
芸術監督・演出家

近藤良平 × 蜷川幸雄

公開対談シリーズ 第1回

NINAGAWA 千の目

僕の中には、いつも
千人のお客さんの目が…

蜷川（以下N） 芸術劇場の創造的責任者になった蜷川です。
どうぞよろしくお願いします。

私は多くの人にこの劇場を愛して頂きたいと思っています。
（後ろに）「千の目（まなざし）」と書いてあります。

これについて申しますと1971年か72年の僕が若い頃、映画館の休憩時間に廊下に出たら、見知らぬ若者が寄ってきました。「蜷川さん、ちょっと話があるんです。外に出てくれませんか」と言うので喫茶店に行きました。突然、テーブルの下で「ガチャッ!」と音がしました。何かと思ったら、ジャックナイフが僕に当てられていて「蜷川さん、あなたは希望を語りますか?」「希望なんか語らないよ。語れるはずがないよ」と答えたら「ああ良かった。あなたが希望を語ったら刺すつもりでした」と言われました。

僕はその時思ったのです。客席にはそうやって目に見えないナイフを持ったお客さんがいっぱいいて、僕がどういう事をし、何を語り、どのように生きていくのかということをちゃんと見ている人達がいる。そのときから僕の中には、いつも千人のお客さんの目があり、千本のナイフを持ったお客さんがいて、「お前はちゃんと現実を正しく見て、誠実に物を語る演出家であり続けられるのか?」と問いかけているんです。今度この劇場の創造的責任者となり、何をやりたいのかを知っていただくために、新しく対談シリーズをスタートさせて頂くこととしました。

このシリーズを「千の目（まなざし）」と名付けて、これから色々な方々とお話をしながら、その楽しみを皆さんと共有していきたい、そして、ここに来ると楽しいと思える劇場にしたいと思っています。

学ランが衣装、タイツじゃなく股引

N さて、第一回目のお相手は舞踊集団「コンドルズ」の主宰者であり振付家でもある近藤良平さんです。不思議なダンスというか、新しいパフォーマンスだと僕は思っています。僕は近藤さんのファンで、いつかお会いしたいと思っていました。それで対談シリーズの始めは、是非、近藤さんに来て頂こうと思いました。

色々な事をこれからお聞きしたいと思っています。

では、近藤さんです。（拍手）

近藤（以下K） 緊張しますわ。

N まず、近藤さん編集のDVDを観せて頂こうと思います。

（映写開始）

K これは去年の夏に、シアターアプルでやった公演のオープニングです。みんなが学生服を着ていますが、全然学生ではありません



近藤良平

コンドルズ主宰・ダンサー
Ryohei Kondo

（財）埼玉県芸術文化振興財団芸術監督・演出家

Yukio Ninagawa

蜷川幸雄

（財）埼玉県芸術文化振興財団芸術監督の蜷川幸雄が各界気鋭アーティストたちを迎えてお話を聞く公開対談シリーズ「NINAGAWA 千の目」がスタート。その第一回目には、来る5月に彩の国さいたま

芸術劇場で公演が予定されているコンドルズの代表近藤良平さんにご登場していただきました。世界も世代も違う2人の創作の現場について興味深いお話が展開されました。

photo:幸田 森

Profile

近藤良平（こんどうりょうへい）

ペルー、チリ、アルゼンチン育ち。主宰する「コンドルズ」は男性のみのダンスカンパニー。舞台衣装は「学ラン」。ハイスピードなシーン展開で、ダンス、映像、生演奏、人形劇、演劇を緻密な計算のもと縦横無尽に使いこなすステージングで話題の嵐に。『情熱大陸』、『トップランナー』にも出演。さらに『気志團 TOUR '04』、NHK教育『からだであそぼ』の振付なども担当。2004年第4回朝日舞台芸術賞寺山修司賞受賞。

蜷川幸雄（にながわゆきお）

埼玉県川口市出身。シェイクスピアはもとより、ギリシャ悲劇から日本の古典・現代劇まで幅広く手がけ、数々の名舞台を世界に送り出している。昨年も「近代能楽集」ニューヨーク公演、歌舞伎「NINAGAWA十二夜」、「王女メディア」、「天保十二年のシェイクスピア」など多数の演出を手掛ける。まさに世界を舞台に疾走し続ける演出家。2006年、第5回朝日舞台芸術賞特別大賞、第13回読売演劇大賞・大賞、最優秀演出家賞受賞。（財）埼玉県芸術文化振興財団芸術監督。

ん。よく見ると分かると思いますが、四十過ぎもいます。（笑い）働いている人が多くて、学校の先生だったり、もちろんダンスを中心にやっている人もいます。

N ナンセンスなというか権威崩しのシーンが好きなんですね。

K 何故なのでしょうかね。僕はそういう育ちなんですか。あまりナンセンスだと思ってないんですけど、そういうことのズレが滑稽さになっちゃうんですね。

N 例えばタイツで踊っても股引に見えるではないですか。



K 本当に股引です。クラシックバレエとかモダンバレエは普通タイツをはいているじゃないですか。これってどう考えても滑稽に見えてしまうんですね。

N 基本的にメンバーはダンサーの経験のある人なんですか？

K それがちょっと変わっていて、僕達そんなに若くないので、ダンスをバリバリにやっていた人は誰もいないんですよ。僕も含め大学の時に間違ってモダンダンスを始めてしまったみたいな、そういう人の集まりなんです。

N 集団的にダンスのレッスンをする事はないんですか？

K まずないですね。

N では、すぐ振りに入っていくんですか？

K そうですね。もちろんストレッチとかはします。振り付けがちょっと特殊なんですけど、彼らは僕と付き合いが長いので僕の振りは踊れるけど、他の踊りは全くだめですね。

N 僕の芝居ばかり出ていると歪むのと同じです。僕の場合は性格も歪んでしまいます。

N 学ランを衣装にしたということはどういう事なのですか？

K 始めたころに、何を着るのかを考えるのが難しくて、たまたま全員持ってきたのが学生服だったんです。

（映写終了）

N 僕も舞台だけでなく映像もやっているのを見てください。「青の炎」で、ジャニーズの二宮和也と松浦亜弥を使って一緒に仕事をしました。

（映写開始）



N これは殺人を犯した少年が、自分の家に女の子を連れてくる場面です。僕は、手前に人がいて、ちょっと引っかけた奥が写っているのが好きなんです。立体的に奥行きがあるよりは。これは自分で、こういう事ができるかなとちょっとやってみて、それで二宮にやらしてもらったのですが。実はこの手です。原作では、この後二人は寝るんですが、寝る代わりに水槽越しに手と手を合わせるというのがミソです。アイドルをバカにしてはいけませんよ、この二人はうまいですよ。「男の子にとって世界一優しい顔で見つめろ」と松浦に言うと、ああいう顔をするわけですね。

「二宮泣けっ!」(笑い)

(映写終了)

梓組みの中で

自由にやらってもらうこともある

N 僕はいつもうるさいことを言っているから、逆に俳優に自由にやらしてもらう楽しさがあります。才能がある人でないとだめですけどね。振り付けでは、「このシーンは自由に踊っていいよ!」というようなことはあるのですか?

K もちろんありますよ。ただ即興というのは実は僕はあまり好きではないんです。何故かというと、体にダンスの言葉があるとしたら、それをいっぱい持っている人はいいいけど、僕も含めてそんなに多くはないじゃないですか。特にコンドルズのメンバーなどは、みんな僕の振りしか出来ないから、自由に踊らせすぎてもそんなに良くないです。僕は決めごとをどんどん出すので、そこからどうい

うふうに変えてくれるかに魅力を感じますね。

N それは基本的に僕も同じかもしれません。あまり即興的な演技は好きじゃないんです。梓組みがあり、きちっと決めてあるのですが、天才的な人たちには、「自由にやってください」と言います。そういう人はいいいですけど、そうでない。

K 見ていてくたびれますよね。

N 舞台に出ていって止めたくなったりします。この頃は、出ていっちゃってるんですよ。この4月にもやる「タイタス・アンドロニカス」という芝居では、切られて手が無い主人公なんですけど、吉田鋼太郎という俳優が途中で手を出しちゃったんです。手を使っているんです。

舞台の一番後ろで見ていたら、前のお客さんが「あれ、手があるわ」と、それで僕は「これはダメだ」と思って客席に上がり、そばにいて「おいっ、手が出ているぞ!」と言ったんですが、本人は全然わからないわけです。そんなことがありました。

「天保十二年のシェイクスピア」でも、篠原涼子のカツラが飛んで客席に落ちてしまって、早変わりできなくなっちゃったんです。僕が拾って舞台に上がりましたが、お客さんは喜んでいました。「天保十二年のシェイクスピア」だったからよかったです。

そんなことを恥じていたら、 外国で仕事など出来ない

N ところで、アメリカ公演は評判が良かったんですね。

K そうですね。最初は向こうの人も日本舞踊の流れとか、舞踏の流れとかを想像していたのかもしれないけれど、僕たちは全く違ってしたので、そのギャップを褒め讃えてくれたという気がします。

N 全く舞踏的要素はないですね。外国では舞踏は人気がありますよね。ロンドンなど歩いていると、山海塾の天児さんにばったり出会ったりします。舞踏の人は、世界中を飛び回っていますね。それとは違う文脈で評価されるっていうのは大変なことですよ。

K それは僕もびっくりしました。

N 僕はヨーロッパ的な文脈の芝居をすると大体たたかれていますね。

K それはヨーロッパの自負があるから、絶対に褒めないのではありませんか。

N 「何だと思っているんだ。東アジアをバカにしているのか」と時には言いたくなるんですが、それは半分しょうがないかなと思うわけです。そういう中でコンドルズのようなやり方は結構大変だろうかと、僕は思うわけです。

K ここまでやったら内心「やるぜ!」と思っています。変な話、ちょっとインチキっぽい感じですよ。それをある部分でちょっと評価してくれると、こんなインチキな方法が許されるんだ、それだったら堂々とインチキをやり通そうという気持ちになります。

N と、おっしゃいますが、あるシーンはやっぱりテクニックがきちっ

と揃って、それは並のものではないですね。僕はその清潔感が好きなんですけれど、「やるときはやるぜ!」というのを隠してインチキというレッテルを自分で貼りながらやる仕事の痛快さがありますよね。

K なんか見抜かれているようで、やりづらいですね。

N フランスでやった時に「FIGARO」という雑誌が僕のことを“Kitsch”と書いたんですね。「まがいものか。いいよかったよ。どうせ“Kitsch”だよ」と思いました。そんなことを恥じていたら、外国で仕事など出来ないと思います。ぜひ“Kitsch”の仮面を被って暴れまくってくれるといいなあと思います。



稽古場という町工場

N このごろ演劇をしているのは労働をしているんだという気がします。普通の人が生きているのと似て、稽古場という町工場に行ったら毎日ちゃんと夕方まで目に見えない労働をして帰って来るといふ。芸能というのは今まではうんと外れていていいんだと思っていたし、もちろん、そうすることによって見えることもあるけれど、一方でいえば、外れながらも日々いろんな仕事を続ける。それが日常になるような事が僕たちの仕事だなあと思うんです。

K 僕も労働だと思っています。二十歳の頃とまったく同じ事をやっているにもかかわらず、今はちょっとお金になる。「ああ、これは労働になったんだな」と最近思うようになりました。

N 近藤さんのドキュメンタリーを見ていたら、「じゃ、行ってくるよ。」と家族と別れて家を出ていくのが、町工場に行くお父さんという感じがしました。僕は埼玉の川口市の出身でキューポラの町で育ったので、ビデオを拝見したら、お父さんがお弁当を持ってちょっと工場に行くという感じで、すごく良いなあと思いました。

K どういう時に演出のアイデアとか盛り上がっちゃいます?

N 車に乗ったりとか、一人でいる時ですかね。人と喋っていても時々、話を聞いてないとよく言われます。(笑い)

K 僕は電車が苦手なんです。色々な人がいて、観察するのが好

舞台は一回で 終わってしまうのが魅力



きで見ちゃうんです。いろんな仕草や感じがあって、面白すぎて逃れられなくなります。一通り全員観察して、次の駅まで行ってしまいう……。仕事に行く前にどっと疲れちゃうんです。(笑い)

N 振り付けを見ていたら「そのアイデアではイヤだ!」と言ったりする人がいておかしかったんですけど?

K よくあります。たぶん同じ方向を向いているんですけど、きっと僕の調子が悪い時なんでしょうね。「ああ、そうかそうか、ここをやめよう」と変えちゃうことはあります。

N 僕はもうちょっと頑固かも知れない。でも最近は人間ができてきたから、人の意見も聞くようになったと思います。(笑い)

N では最後に、近藤さんに質問したい方は手を挙げて下さい。

客A モノを創る過程で何を一番大事にしますか?

K 舞台は花火みたいで、一回で終わってしまうのが魅力です。だから、結構いちかばちかで出し切ろうとします。それが一番大事な気がします。

N では、もうおひとり。これが最後です。

客B 作品の中のパフォーマンスをつなげる上で、気遣っている点は何がありますか?

K 僕は脚本というのが一切なくて、断片的にいっぱい書く。ストーリーじゃないんです。でも結果的には、メッセージをその度に残したいと思っています。作品はどのような形でもいいのですが、流れは最終的にはとても大事にします。断片の時にはどう考えてもつながらないだろうというものを、後からつなげる作業はすごくおもしろいです。激しい動きからいきなり、ちまちました動きに転換して綺麗に踊るというのは、体力的にもかなり無理がある大変なことなのですが、その「流れ」と「無理」の両方に気を遣います。

N お二人のご質問で観客の皆さんの関心の強さがわかりました。私もコンドルズの5月の公演「勝利への脱出」を楽しみにしております。本日はありがとうございました。

コンドルズ 埼玉スペシャル公演2006

勝利への脱出 SHUFFLE

escape to victory ☒ SHUFFLE



「TOP OF THE WORLD」Photo:HARU

彩の国さいたま芸術劇場2006年度シーズンダンスプログラム第一弾は、サッカーワールドカップ開催年に因み日本で最も熱い12人のプレーヤー コンドルズによる「勝利への脱出」をお届けします。風雲児の異名を取るダンサー近藤良平主宰するナンセンスでファンタスティックな、ダンス、映像、生演奏、人形劇、演劇のアーティスト集団。シュールなユーモアセンスと体力そして独自のテクニックを駆使し、予想のつかない舞台を展開します。今回の上演作品「勝利への脱出 SHUFFLE」は、彩の国さいたま芸術劇場の舞台に合わせた特別バージョン。力強い応援よろしくお願いします。

コンドルズ～!! 一生大好きい～☆☆☆

私が近藤さんとお会したのは、3年前の舞台「ファウスト」の振り付けをしてくださったのがきっかけでした。

初めて踊るコンテンポラリー☆ 今まで使った事のない筋肉を動かしたり体を動かす楽しさを教えてくれました。

画期的な振りをつける近藤さんのその面白いポーズやステップに私はすっかりときめいてしまってそれ以来大ファンです。

その後「リング企画」というセッションハウスのダンスのイベントでメンバーの皆さんとお会いできたのですが、とにかく皆さん仲がいい～!

小道具を作ったり振り付けにアイデアを出したり、時間のない中やる事だらけの近藤さんの負担をみんなが吸い取るように一緒に舞台を作っていて、愛のあるチームワークにすごく感動しました。最近私の周りにもファンの輪が広まってきていてそれは見事に紹介することにお友達はすっかりコンドルズの虜です。

舞台を見た友達はコンドルズと出会わせてくれてありがとうって言ってくれる。

みんな一度見たらコンドルズが大好きになっちゃう。コンドルズの魔法みたいです。

コンドルズさんの舞台を見るといっぱいパワーがもらえる。面白くてみんなキラキラしていて、元氣であふれてるっ☆

男らしくて時に切なくてドキドキさせてくれる。

これからも私たちをコンドルズの魅力いっぱいの世界に連れて行ってくださいね!

あっあと篠原の新曲「★遊FEVER★」のPVにもご出演して頂きました☆皆さんCGの中でキラキラしてます☆是非ご覧になってくださいませ!!

コンドルズ～!! 一生大好きい～☆☆☆

篠原ともえ



Tomoe Shinohara

95年「チャイム」で歌手デビュー。
TV、ラジオの他、CM、映画、ファッション、舞台ミュージカルと多方面で活躍。
2005.10.19 デビュー10周年記念シングル「★遊FEVER★」リリース
主な出演番組
TV「モンすたージオ」「平成教育2006予備校」「たべごろマンマ!」
ラジオ「シノハラフードコート」、舞台「月光のつづしみ」「ファウスト」長くつしたのビビより「ミュージカルビビ」「スプーキーハウス」「BIGGEST BIZ」等。
2006年8月～「ミュージカル ビビ」再演決定



コンドルズ 埼玉スペシャル公演2006

[勝利への脱出 SHUFFLE escape to victory ☒ SHUFFLE]

構成・映像・振付:近藤良平

5月13日(土) 14:00/19:00キック・オフ

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【チケット(税込)】全席指定

一般 前売4,000円 当日4,500円 学生2,000円

メンバーズ 前売3,600円 当日4,050円

【出場選手】青田潤一 石淵聡 オクダサトシ 勝山康晴 鎌倉道彦 古賀剛
小林顕作 高橋裕行 橋爪利博 藤田善宏 山本光二郎 近藤良平

ヤン・ファールブル 演出・振付・舞台美術

『主役の男が女である時』

リスベット・グルウェーズのためのソロダンス
Quando l'uomo principale è una donna

トリッキーでポジティブな愉悅の瞬間

ヤン・ファールブルといえば、やることなすことすべてが実験的というイメージが付いてまわる。この作品もダンス作品として先鋭的であり、その方法論たるやヤン・ファールブルらしく衝撃的であることは間違いない。しかし、ヤンの数多い作品のなかでもこれ程観る者の心を真正面から打ち、尾を引くような至福感を残してくれる作品は少ないのではないだろうか。

登場するのは、黒いスーツに身を包んだ長身瘦躯のリスベット・グルウェーズ。ヤン・ファールブルは始めから彼女のためにこの作品をつくった。作品が進行するにしたがい、ひりひりする位にそのことがよくわかる。男／女のジェンダーの壁を感じさせず、それでいながらエロスを放射しつづける彼女は、中性とか無性というより装わずしてアンドロジナス（両性具有）的である。彼女が上着を脱いだとき、上半身につけているのは両乳首をおおう一枚の黒テープだけ。性を越えたその美しく不可思議な姿態に、ますます釘付けになる。

緩急をつけながら表情豊かで切れ味鋭い動きをつづけるリス

ベットの身体。それと同じくらいの存在感をもっているのが、天井に吊るされた沢山のオリーブオイルの瓶とそこから糸を引くように垂れているオリーブオイルである。最初は床にたまったオイルを避けるように動いていた彼女が、瓶の栓を抜き、身に着けていた服を脱いでオイルにまみれていったとき、真のメタモルフォシスが訪れる。オイルはまるで彼女自身の体液か彼女を包んでいた羊水であるかのように彼女を包み、彼女の身体を芯から自由にする。

誰もなしえなかったようなウイットとユーモアを交え、あるがままの「性」と「生」がうねるようにしてひとつになった最後の一瞬——この作品を観たら、そのトリッキーでポジティブな愉悅の瞬間が忘れられなくなるはずだ。

石井達朗

石井達朗 (いしい たつろう) 舞踊評論家

ニューヨーク大学 (NYU) 大学院演劇科、同パフォーマンス研究科研究員などを経て、現在は慶応大学教授。専門は舞踊・身体文化。祭祀・儀礼・伝統舞踊のフィールドワークでは、韓国、インド、インドネシアなどを訪ねる。朝日舞台芸術賞 (2001—4年)、カイロ国際実験演劇祭 (2002年)、トヨタコレオグラフィアワード (2006年より) 審査員。著書に『異装のセクシュアリティ』『男装論』『サーカスのフィルモロジー』『アジア、旅と身体のコスモス』『アクロバットとダンス』ほか

このダンスは完璧なアートであり、
ダンサーは抜群の表現力を持ったアーティストだ。
…素晴らしい一言に尽きる。(ルネ・シルヴァン ル・フィガロ紙)

『主役の男が女である時』 Quando l'uomo principale è una donna

【日時】 6月30日 (金) 開演19:30 【会場】 彩の国さいたま芸術劇場
7月1日 (土) 開演16:00 大ホール
2日 (日) 開演16:00

【演目】『主役の男が女である時』 Quando l'uomo principale è una donna
(リスベット・グルウェーズのためのソロダンス)

【演出・舞台美術】ヤン・ファールブル
【振付】ヤン・ファールブル、リスベット・グルウェーズ
【出演】リスベット・グルウェーズ
【音楽】マールタン・ファン・コーウェンバーク
ドメニコ・モドゥーニョ「ヴォラーレ」

【チケット (税込)】一般 S席4,000円 A席3,000円 学生A席2,000円
メンバーズ S席3,600円 A席2,700円
【発売日】メンバーズ 3月18日 (土) 一般 3月24日 (金)



ヤン・ファールブルは、
美貌のダンサーが秘める
両性具有の妖しい官能性を鮮やかに描き出した。
(ドミニック・フレタール ル・モンド紙)



ヤン・ファールブル Jan Fabre

1958年アントワープ (ベルギー) 生まれ。アントワープ王立美術アカデミーで学んだ後、演劇と美術の境界を横断するパフォーマンス作品によってアーティストとしての活動を開始した。その活動は、パフォーマンスや演劇、ダンス、オペラ、脚本、造形美術と広範な領域にわたり、ベルギーのみならず海外でも、最も多才な前衛アーティストとして知られている。84年にベネチア・ビエンナーレで発表した

「劇的狂気の力 Le pouvoir des folies théâtrales」は、現代演劇の先端に位置する前衛作として注目を集め、世界中で上演された。80年代から現在に至るまで、一貫して人間の肉体を探究の対象とし、アヴィニヨン演劇祭で発表された「我は血」(2001年)や王立モネ劇場で上演された「タンホイザー」(2004年)は国際的な評価を獲得した。2005年にはアヴィニヨン演劇祭に芸術監督として招かれた。

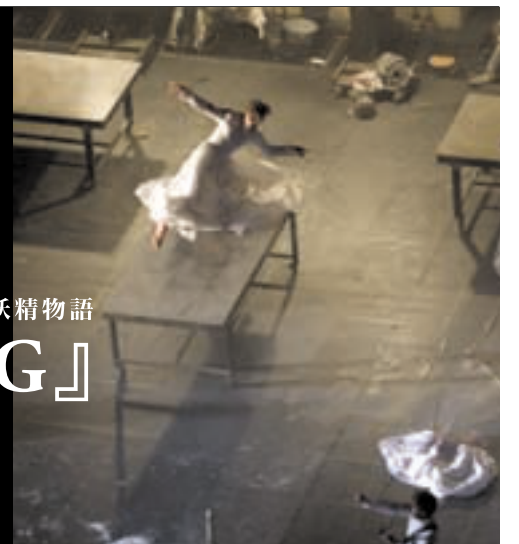
予告

アヴィニヨン演劇祭を
震撼させた衝撃作、上演決定！！

ヤン・ファールブル テキスト・舞台美術・振付

『我は血 JE SUIS SANG』 ~中世妖精物語

【日時】 2007年2月16日 (金) 17日 (土) 18日 (日)
【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 【発売日】 11月中旬 (予定)





写真提供: (財) 松山市施設管理公社



写真提供: 荒井事務所



彩の国

さいたま芸術劇場

video dance 2006

ダンスやフィジカルシアターの
エキサイティングな映像に出会える
5月の2週連続ウィークエンド!

《video dance — ビデオ・ダンス》はビデオ、DVD、映画といった映像メディアを通して、ダンスやフィジカルシアター*の映像に接し、その多様で豊かな表現世界の魅力を発見するチャンスです。

ピナ・バウシュが65歳以上の男女市民を公募して試みた「コンタクトホフ」のリハーサル風景。シルヴィ・ギエムの楽屋での表情や稽古風景を追ったドキュメンタリー。今は亡きタデウシュ・カントルが自身の演劇思想を語るインタビューや舞台。美術そして舞台と多様な顔を持ちながら「劇的狂気」の力を駆使し美の創造に挑むヤン・ファールブルの舞台とドキュメンタリー。近年ヨーロッパで注目を集めているシディ＝ラルビ・チェルカウイの代表作数作品。そしてマッツ・エック、イリ・キリアン、フィリップ・ドゥクフレ、ジョゼフ・ナジの舞台やインタビュー、その他にも日本未公開の気になる中堅、若手ダンサーのヨーロッパ発最新作を集めています。

一方日本からは舞踏の創始者、土方巽の作品群を挿入したドキュメンタリー映画「夏の嵐」(荒井美三雄監督)、いつまでも変わらないロックンロールなところで踊り続ける笠井勲、舞踏の名を世界に知らしめた天児牛大と山海塾。今やヨーロッパのオペラ座に振付けするなど内外で活躍する勅使川原三郎のドキュメンタリーと新作短編映画。さらには山田せつ子、伊藤キム、白井剛、近藤良平、続いて今後の活躍が期待される若手の作品まで約60映像余り、彩の国さいたま芸術劇場のオリジナルセレクションとして提案します。

ただいま鋭意セレクション中ですので以上はその一端ですが、ダンスやフィジカルシアターをもっともっと知りたいあなたは**必見**です。*フィジカルシアターとは、ここではダンスと演劇との境界で生み出される身体表現のことを指しています。

この企画はフランス国立ボンビドー・センター(パリ)のビデオ・ダンス部門との共催で進めています。

彩の国さいたま芸術劇場 video dance 2006

【日時】5月12日(金)～14日(日)
5月19日(金)～21日(日)

Week 1 5月12日(金) 14:00～21:00
5月13日(土) 13:00～21:00
5月14日(日) 13:00～20:00

Week 2 5月19日(金) 14:00～21:00
5月20日(土) 13:00～21:00
5月21日(日) 13:00～20:00

*上映時間はあくまで目安です



【会場】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

【チケット(税込)】(前売り)1日券 500円 (当日)1日券 700円

(通し券)全プログラム通し券 2,000円 *前売・当日ともに同価格

【発売日】メンバーズ 3月18日(土) 一般 3月24日(金)

最新情報はチラシをご参照ください



★



★



★写真提供:ボンビドー・センター



© Jacques Denarnaud



ピアニスト100

100人を聴く10年、ついにラストシーズンへ。

●●● 音楽監督:中村紘子 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール ●●●

若きエネルギー 欧州での活躍がめざましい美しき華



アリス＝紗良・オット (ドイツ)

1988年ドイツ人と日本人の両親のもと、ミュンヘンに生まれる。95年ドイツ連邦青少年音楽コンクール優勝を皮切りに、97年スタインウェイ国際、98年イタリア・リゲティ国際、99年ハンブルク音楽ホール、2000年グロートリアン・シュタインヴェーク国際、01年及び02年ミュンヘン・カール・ラング、03年リンダウ・ロータリー・ヤング・ミュージックの各コンクールで全て第1位受賞。03年にはケーテン・バッハ・コンクールで第1位と市長特別賞も獲得。現在、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学でカール＝ハインツ・ケマリンク氏に師事。

アリス＝紗良・オットさんよりメッセージが届きました。昔から私にとって音楽とは、世界の皆を結び、自分の感情やファンタジーを一番表現できる世界共通語であり、ドイツ人、日本人としての日常生活の些細なエピソードの「語り」でもあります。母の故郷でこの「ピアニスト100」の最後10人のトップバッターとして、大きな名誉と責任が私を奮い立たせます。この「語り」が皆様の心のどこかで共鳴し、そして皆様と一つになれば最高です。



91/100 アリス＝紗良・オット Alice Sara Ott
【日時】4月8日(土) 16:00開演
【曲目】モーツァルト:デュポールのメヌエットによる9つの変奏曲 二長調 K.573
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第23番 ヘ短調 op.57「熱情」
リスト:コンソレーション(全6曲) パガニーニ 大練習曲集(全6曲)
【チケット(税込)】一般 S席 3,000円/A席 2,000円
学生 S席 2,000円/A席 1,000円 メンバース S席 2,700円

クリーヴランド優勝! 大きく花開いた期待の新鋭



ホワン・チューファン (中国)

7歳でピアノを始め、12歳で中国の瀋陽音楽学院プレカレッジ・ディヴィジョンに最年少で奨学金全額を得て入学。15歳でアメリカに移住。第12回ヴァン・クライバーン国際コンクールでファイナリストに選ばれ、その2ヵ月後には2005年クリーヴランド国際コンクールで優勝するなど、数々のコンクールで優勝・入賞を果たしている。中国はもとより、ヨーロッパやアメリカにおいても幅広い演奏活動を行っている。カーティス音楽院でクロード・フランク氏に師事。現在ジュリアード音楽院修士課程に在籍しロバート・マクドナルド氏のもとで研鑽を積んでいる。

92/100 ホワン・チューファン Huang Chu-Fang
【日時】5月20日(土) 16:00開演
【曲目】シューマン:幻想曲 ハ長調 op.17
ストラヴィンスキー/アコスティ編曲:組曲「火の鳥」
ドビュッシー:前奏曲集より
第I集 第5曲 アナカプリの丘 第I集 第7曲 西風の見たもの
第II集 第6曲 風変わりなラヴィース将軍
第I集 第2曲 帆 第II集 第12曲 花火
ラヴェル:ラ・ヴァルス
【チケット(税込)】一般 S席 3,000円/A席 2,000円
学生 S席 2,000円/A席 1,000円 メンバース S席 2,700円

「ピアニスト100」シリーズの91、92回と若手女流2人が並ぶ。

第91回到登場するのは、アリス＝紗良・オット。1988年生まれの今年18歳になろうとする若さだが、CDデビューはなんと15歳という早熟ぶり。リストのエチュードなど小品にさわやかなセンスを効かせたこのアルバムは、ドイツで高く評価されたという。コンクール入賞歴やコンサート出演も数多く、著名ピアニストの絶賛も相次いでいるとき。今回はその得意なリストのレパートリーにベートーヴェンの本格的な「熱情」ソナタにも挑戦。ドイツ人の父、日本人の母のもとにドイツに生まれた彼女は、一般的な日本人女性とはひと味違ったリスト、ベートーヴェンなどを楽しませてくれるだろう。

第92回到登場するホワン・チューファンの演奏は、2004年5月に北京で開かれた中国国際ピアノコンクールを視察した際に初めて聴いた。ステージに登場するだけで華やいた雰囲気を持ち、ドラマティックにラフマニノフの第2協奏曲を演奏するホワンの演奏は、ひょっとすると第1位かと思わせる素晴らしいものであったが、何故か第4位。しかしいつもにこやかで感じの良い素敵なピアニストで、強い印象を残してくれた。その後クリーヴランドで優勝したが、全く当然のことであろう。リサイタルではシューマンやドビュッシーに混じって、ストラヴィンスキー「火の鳥」のピアノ版が注目されよう。アメリカで活躍する中国人の洗練された一面を、存分に楽しみたいリサイタルである。 諫山 隆美(いさやまたかよし、音楽評論家)

No.93～No.100

93/100 ケマル・ゲキチ(クロアチア) Kemal Gekic ◆6月17日(土) 16:00開演
◆曲目:ベートーヴェン ピアノ・ソナタ 第14番 嬰ハ短調 op.27-2「月光」/リスト 超絶技巧練習曲集(全12曲)、ハンガリー狂詩曲 第9番 変ホ長調「ベシュの謝肉祭」

94/100 北村 朋幹(日本) Tomoki Kitamura ◆7月23日(日) 15:00開演
◆曲目:バッハ イギリス組曲 第3番 ト短調 BWV808/モーツァルト ピアノ・ソナタ 第13番 変ロ長調 K.333/メンデルスゾーン 幻想曲 嬰ヘ短調 op.28「スコットランド風ソナタ」/スクリャービン 幻想曲 口短調 op.28/ベルク ピアノ・ソナタ op.1/リスト ハンガリー狂詩曲 第10番 ホ長調「前奏曲」/シューベルト ピアノ・ソナタ 第14番 イ短調 op.143 D.784/シューマンウィーンの謝肉祭の道化芝居「幻想的情景」 op.26

95/100 アンティ・シーララ(フィンランド) Antti Siirala ◆9月10日(日) 15:00開演
◆曲目:ベートーヴェン グラニツキーのパレエ『森の娘』のロシア舞曲による12の変奏曲
イ長調 WoO71、6つのバガテル op.126、ピアノ・ソナタ 第5番 ハ短調 op.10-1、ピアノ・ソナタ 第6番 ヘ長調 op.10-2、ピアノ・ソナタ 第7番 二長調 op.10-3

96/100 シプリアン・カツァリス(フランス) Cyprien Katsaris ◆10月21日(土) 16:00開演
◆曲目:シューベルト 3つのピアノ小品 D.946 より 第1番 変ホ短調、第2番 変ホ長調/シュベルト(リスト編曲) 歌曲「セレナーデ」「水車屋と小川」「アヴェ・マリア」/ハイドゥン ピアノ・ソナタ ハ長調 Hob.XVI-35/L.モーツァルト(キャメロン編曲) おもちゃの交響曲/リスト(カツァリス編曲) 2つのチャールダーシュ より 第2曲 チャールダーシュ・オプスティネ/ショパン ワルツ イ短調 op.34-2、練習曲 ハ短調 op.25-12、夜想曲 変ホ長調 op.9-2、幻想即興曲 嬰ハ短調 op.66、子守歌 変ニ長調 op.57/J.S.バッハ(カツァリス編曲) トッカータとフーガ 二短調 BWV565

97/100 キム・デジン Kim Daejin ◆11月19日(日) 15:00開演

98/100 アルカディ・ヴォロドス Arcadi Volodos ◆12月9日(土) 16:00開演

99/100 レイフ・オヴェ・アンスネス Leif Ove Andsnes

◆2007年2月10日(土) 16:00開演

100/100 第6回浜松国際ピアノコンクール最高位受賞者
Winner of the 6th Hamamatsu International Piano Competition
◆2007年3月 ※コンクール本選後に決定



フェドセーエフは、1974年からモスクワ放響の音楽監督として迎えられ、以後30年余もの歳月をこのオーケストラと共にしている。今ではヨーロッパ各国で非常に高い人気を得て、演奏会は常に大きな反響を呼んでいる。スマートでありながら人間くさいフェドセーエフの指揮、それにこたえるように曲に応じて絶妙なバランスの響きを創出する楽器たち。そこに私たちは両者の長く深い結びつきを感じ取ることができる。

今回埼玉会館では、まずラフマニノフ「ピアノ協奏曲第2番」が演奏される。大ピアニストで、並はずれた大きな手を持っていたラフマニノフは、随所に超絶技巧を盛り込んだ。その華麗な技巧と、ロシア的な哀愁と美しいムードを醸し出すこの曲は、イギリス映画

チャイコフスキー記念モスクワ放送交響楽団
Tchaikovsky Symphony Orchestra of Moscow Radio.

ロシアの最も輝かしいオーケストラとして知られるモスクワ放送交響楽団(TSMR)は、1930年に創立され、ソヴィエト・ラジオ・ネットワークの公式オーケストラとなった。初代音楽監督アレクサンドル・オルロフ以降、常に音楽界最高の指揮者を音楽監督に迎え、芸術性と個性を築き上げてきた。1974年ウラディーミル・フェドセーエフが音楽監督に就任、現在に至っている。チャイコフスキーをはじめとするロシア音楽の演奏において特に優れたパートナーシップを発揮するが、ロシア作品にとどまらずレパートリーの幅を広げていることが常に評価されている。1993年には、チャイコフスキーの演奏団体として“世界最優秀のオーケストラ”であることを認められ、ロシア文化省、国際チャイコフスキー協会、チャイコフスキー博物館より「チャイコフスキー記念」の称号が贈られた。ロシア主要音楽祭には欠かせない存在であり、また世界の主要都市で公演を行う他、ミュンヘン、フランクフルトで開かれた“チャイコフスキー音楽祭”でも中心となって演奏を行うなど、世界各地の音楽祭に出演している。

フェドセーエフ指揮
チャイコフスキー記念
モスクワ放送交響楽団
ピアノ/小山実稚恵
【日時】5月27日(土) 17:00開演
【会場】埼玉会館 大ホール

【曲目】ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 op.18
チャイコフスキー:交響曲 第6番 口短調 op.74「悲愴」

【チケット(税込)】

一般 S席8,000円 A席6,000円 B席4,000円

学生席2,000円 *学生券ご購入の場合は学生証の提示が必要です。

メンバーズ S席7,200円 A席5,400円 B席3,600円

【前売・電話予約】財団チケットセンター 048-858-5511

埼玉会館(窓口販売のみ)

2年ぶりの夢の共演、
埼玉会館でのみ実現する夢のプログラム!!

フェドセーエフ指揮

チャイコフスキー記念

モスクワ放送交響楽団

ピアノ/小山実稚恵

30余年の深い絆で結ばれた巨匠フェドセーエフ+名門モスクワ放送交響楽団、そしてフェドセーエフが最も信頼を寄せるピアニスト小山実稚恵が贈る
珠玉のオール・ロシア・プログラム

「逢いびき」に使われたことでも知られ、世界中にファンを持つ名曲となった。共演の小山実稚恵はフェドセーエフが大きな信頼を寄せるピアニストの一人。ラフマニノフを得意とする彼女は、最高のパートナーを得て素晴らしい演奏を聴かせてくれるであろう。

チャイコフスキー「悲愴」はチャイコフスキーの“白鳥の歌”となった作品。この曲を発表してわずか9日後に彼は世を去った。標題のとおり絶望と悲哀に満ちたこの最高傑作に対して、チャイコフスキーの第一人者であるフェドセーエフ+モスクワ放響がいかにその本領を発揮するか、非常に楽しみである。なお、今回の来日でチャイコフスキーの交響曲が演奏されるのは埼玉会館のみ。魂を揺さぶる渾身の名演を絶対にお聴き逃しなく。

ウラディーミル・フェドセーエフ(音楽監督/首席指揮者)
Vladimir Fedoseyev,Artistic Director/Principal Conductor

1932年レニングラード(現サントペテルブルグ)生まれ。モスクワ音楽院研究科のレオ・ギンズブルグ教授のもとで学ぶ。1971年エフゲニー・ムラヴィンスキーからレニングラード・フィルの客演指揮者として招かれたことを契機に、輝かしいキャリアをスタート。1974年モスクワ放送交響楽団の音楽監督及び首席指揮者に就任。以後30年にわたるパートナーシップを築いて同オーケストラをロシアのトップクラスの楽団に育て上げ、世界ツアーを通じて海外での評価を確立している。叙情的なロシア作品でも重厚なヨーロッパ作品においても、国民的特性を充分に引き出した演奏をすることで定評がある。

バイエルン放響、シュトゥットガルト放響やフランス、イタリア、スイス、イギリス、スカンディナヴィア、アメリカなどの一流オーケストラに客演。1997年1月よりウィーン交響楽団の首席指揮者に就任し、ウィーンのムジークフェライン・ザールや海外で大成功を収めた。オペラでも活躍しており、現在はチュリッヒ歌劇場の客演指揮者として成功を収めている。1996年世界の第一線で活躍するロシア人に対する賞【Services to the Motherland】を授与され、同年12月には、オーストリア共和国政府より「シルヴァー・クロス賞」を授与された。



小山実稚恵(ピアノ) Michie Koyama,Piano

1982年チャイコフスキー国際コンクール第3位、1985年ショパン国際ピアノコンクール第4位と、二大国際コンクールに日本人として初めて入賞。以来、人気、実力ともに日本を代表するピアニストとして目覚ましい活躍を続けている。2006年6月からはBunkamuraオーチャードホールにて春・秋年2回ずつ2017年までの“12年間・24回リサイタルシリーズ「小山実稚恵の世界」〜ピアノで綴るロマンの旅”に取り組み。BBC響、モントリール響、モスクワ放響をはじめ、海外オーケストラや世界的指揮者と数多く共演。彩の国さいたま芸術劇場においてはシリーズ企画にも積極的に取り組み、2002年から2004年はスクリャービン、ラフマニノフのソナタ全曲他を全7回、また2001年から2005年にはブラームスの室内楽を全5回にわたり演奏。2004年5月には埼玉会館においてフェドセーエフ指揮/モスクワ放響と共演。ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル専属アーティストとして、多数のCDをリリース。2003年6月にリリースした「ラフマニノフ・ピアノ協奏曲第3番(フェドセーエフ指揮/モスクワ放響)他」は大絶賛された。また、「スクリャービン:ピアノ・ソナタ全集」に続けて、「ショパン:バラード(全曲)」もレコード芸術誌特選盤に選ばれ、大好評を博している。2005年度文化庁芸術祭賞音楽部門大賞、第7回ホテルオークラ音楽賞を受賞した。



©Hideki Otsuka



モーツァルト生誕250年に贈る 世界最高の木管アンサンブル

アンサンブル・ウィーン＝ベルリンは、ウィーン・フィルとベルリン・フィルの首席奏者を中心とする、異なるオーケストラに属するメンバーにより結成された木管アンサンブルである。その演奏は常に完璧で、まるでいつも活動を共にしているかのような絶妙な調和を創り出し、世界中の注目を集めている。

プログラムはもちろんオール・モーツァルト。作曲活動が頂点を迎えた晩年の珠玉の傑作から、有名なオペラ「魔笛」「ドン・ジョヴァンニ」「コシ・ファン・トゥッテ」のハイライトと、死の直前に生み出された愛らしい3つの小品 (K.594, K.608, K.616) が交互に演奏される。そして最後は17歳の若き時代の作品から、初めての弦楽五重奏曲 (原曲) K.174で締めくくられる。

速報!! N響が、再び 劇場音楽ホールにやってくる

去る1月21日、モーツァルト・イヤーを祝う“第1弾”として行われたN響による「オール・モーツァルト・プログラム」の素晴らしい演奏は記憶に新しいところ。そのN響が、この夏再び音楽ホールに登場する。乞うご期待!!

【日時】7月17日(月祝) 16:00開演 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【曲目】ハイドン:チェロ協奏曲 第2番
メンデルスゾーン:交響曲 第4番「イタリア」ほか
【出演】向山佳絵子(チェロ)、沼尻竜典(指揮)、NHK交響楽団(管弦楽)
【チケット(税込)】一般 S席 6,000円 A席 5,000円 学生席 2,000円
メンバーズ S席 5,400円 A席 4,500円
【発売日】メンバーズ 4月8日(土) 一般4月15日(土)

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)は、1756年1月27日にオーストリアのザルツブルクで生まれた。今年2006年は生誕250年の記念の年にあたり、世界各地でお祝いムードが盛り上がっている。当劇場もこの1月にN響による“オール・モーツァルト・プログラム”で今年の音楽公演の幕を開けたが、続く“第2弾”として、風薫る5月に世界最高の木管アンサンブル「アンサンブル・ウィーン＝ベルリン」を迎える。オーケストラとはひと味違うモーツァルトに出会えるはずだ。

アンサンブル・ウィーン＝ベルリン

【日時】5月16日(火) 19:00開演

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】【オール・モーツァルト・プログラム】

アダージョとアレグロ ヘ短調 K.594 (木管五重奏)

オペラ「魔笛」K.620 ハイライト (フルート&オーボエ)

オペラ「ドン・ジョヴァンニ」K.527 ハイライト (フルート&オーボエ)

幻想曲 ヘ短調 K.608 (木管五重奏)

オペラ「コシ・ファン・トゥッテ」K.588 ハイライト (木管五重奏)

アンダンテ ヘ長調 K.616 (木管五重奏)

木管五重奏曲 変ロ長調 K.174 (木管五重奏)

【出演】フルート／ヴォルフガング・シュルツ (ウィーン・フィル首席奏者)

オーボエ／ハンスイェルク・シェレンベルガー
(元ベルリン・フィル首席奏者、ベルリン・ハイドン・アンサンブル創作者)

クラリネット／ノーベルト・トイブル (ウィーン・フィル首席奏者)

ファゴット／ミラン・トゥルコヴィッチ
(元ウィーン交響楽団、ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス首席奏者)

ホルン／シュテファン・ドール (ベルリン・フィル首席奏者)

【チケット(税込)】一般 S席 4,500円 A席 3,500円 学生席 1,500円

メンバーズ S席 4,050円 A席 3,150円

彩の国さいたま芸術劇場 蜷川幸雄公開対談シリーズ

「NINAGAWA 千の目」 & 「talk・talk・talk」

「NINAGAWA 千の目」第2回

狂言師 野村萬斎 & 演出家 蜷川幸雄

【日時】3月23日(木) 13:00～(約1時間)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【定員】346名 ※メンバーズの方以外の募集期間は終了しております



Mansai
Nomura

「talk・talk・talk」第1回

麻実れい & 小栗旬

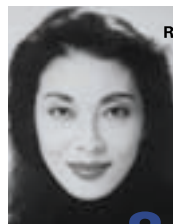
『タイタス・アンドロニカス』 出演者

& 蜷川幸雄による鼎談

【日時】4月30日(日) 17:30～(約1時間)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【定員】776名 ※当日の公演チケットをお持ちの方はそのまま参加できます



Rei Asami



Shun Oguri

©PREPPY2005

【「talk・talk・talk」応募方法】

※当日の公演チケットをお持ちでない方

はがきに以下の事項を記入の上、締切日までにご応募ください。(応募多数の場合は、抽選を行います。この場合、整理券の発送をもって抽選結果の発表にかえさせていただきます。)なお、メンバーズの方に対する優先枠を設けております。

●記入事項

①郵便番号・住所

②氏名

③年齢

④会員番号(メンバーズの方)

⑤希望人数(1枚のはがきで2名様まで)

●応募締切

4月10日(当日消印有効)

●応募先

〒338-8506

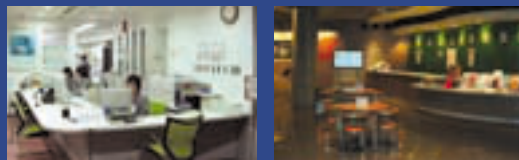
さいたま市中央区上峰3-15-1

(財)埼玉県芸術文化振興財団

「talk・talk・talk入場募集係」

RENEWAL INFORMATION

2月25日より、施設利用受付窓口とインフォメーション(チケットセンター)を統合し「総合インフォメーション」として事務室側にリニューアルしました。また旧インフォメーションは「利用者交流コーナー」として休憩・歓談スペースとして活用できるようになりました。



彩の国さいたま芸術劇場内

レストラン& カフェテリア

リニューアル オープン!

RENEWAL OPEN!



はぐくむ命

つなぐ心

どこよりも安心で

安全なものを!!

質の高い素材や食材を提供してくださる小生産者を守ってゆくこと。子供たちを含めた消費者全体に味覚の教育を進めてゆくこと。一期一会を大切に人が生きてゆくためのお手伝いを!

ビストロやま オーナーシェフ 山田

ビストロ やま



ランチメニュー ¥1,200～ コース ¥2,500～

ディナーコース

¥2,500 ¥3,500 ¥5,000

¥7,500 ¥9,500 ¥12,000

(¥9,500コース、¥12,000は要予約。)

(ア・ラカルトメニューもございます。)

シニアソムリエ厳選ワイン ¥3,000～

グラスワイン ¥600～

貸切・打ち上げ(40名様以上)

ランチ お1人様 ¥3,000～

ディナー お1人様 ¥5,000～(お料理・ドリンク代込み)

ランチタイムのお席のご予約はコース料理のみお受けしております。

048-854-1170(2/25よりご予約お受け致します)

営業時間

ランチ 11:30～15:00(L.O 14:30)

ディナー 17:30～21:30(L.O 21:00)

tel.048-854-1170

※土・日・祝日・公演内容により営業時間の変更もございます。

また、劇場休館日はカフェもお休みさせていただきます。

カフェ ペペロネ



FOOD

バスタランチ(サラダ・コーヒー付) ¥980

サンドイッチ、調理パンetc...各種ご用意しております。

DRINK

コーヒー ¥400

紅茶 ¥400

オレンジ ¥400

グラスシャンパン ¥1,000

グラスワイン ¥500

お得なチケット

☆コーヒー券(12枚) ¥4,000 ※2杯分お得です

☆バスタランチ券(11枚) ¥9,800 ※1食分お得です

ビュッフェ

大ホール、小ホール、音楽ホールでの営業致します。

詳しくはお問い合わせ下さい。

花束ご予約

承ります

季節のお花で

ご用意いたします。

営業時間

10:00～18:00



<http://www.yamapepe.jp>

普及教育事業

Communication

◎私たちは地域とともに舞台芸術の芽を育む活動をおこないます。

Play 【演劇】

さいたまゴールド・シアター

2006年4月、彩の国さいたま芸術劇場 高齢者演劇集団「さいたまゴールド・シアター」が動き始める!

*詳しくはP18記載

Dance 【舞踊】

彩の国さいたま芸術劇場 video dance 2006

現代ダンスのエキサイティングな映像に出会える5月の2weekend! ビデオやdvd、映画といった映像を通して、現代のダンスを巡る多様さと活気に出会うチャンスです。

*詳しくはP10記載

日本昔ばなしにダンスで挑戦!

《親子で鑑賞して楽しみ、そして考えるプログラム》

日本の昔ばなしをダンスで綴るシリーズ第1弾。「コンドルズ」を率いるダンサー／振付家の近藤良平氏、「珍しいキノコ舞踊団」のダンサー／振付家の伊藤千枝氏という人気の2人がそれぞれ、みなさまおなじみの日本昔話にダンスで取り組みます。親子が一緒に楽しみ、見た作品について親子で話し合ってみましょう、という提案です。

【公演日:10月7日(土)、8日(日)】

★このほかにもバレエやコンテンポラリー・ダンスのワークショップ等を予定しています。



©



©

Music 【音楽】

光の庭プロムナード・コンサート

《親子で鑑賞できるプログラム》

公園や街角で、道ゆく人々がふと足を止めて楽しむことのできるコンサート、それがプロムナード・コンサートです。ここ彩の国さいたま芸術劇場のプロムは、ガラスに周囲を囲まれた「光庭」から差しこむ陽光のなかで、土曜の午後のひとときをクラシック音楽とともに過ごして頂く無料コンサート。今年はポジティブ・オルガンの「オルガン・ミニ・コンサート」のほか、弦楽器や管楽器のアンサンブルも登場!「クラシックは難しいかも…」「子どもが小さいから…」というみなさん、ちょっと足を止めてみませんか?



開演:各回14:00 (30分程度)

会場:彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ

料金:無料

【オルガン・ミニ・コンサート】監修:鈴木雅明、構成:大塚直哉

2006年

4月22日(土) オルガンとおはなし:梅干野 安未

5月27日(土)

6月24日(土)

8月19日(土)

9月16日(土)

11月18日(土)

2007年

1月20日(土)

3月17日(土) 市民マラソン・コンサート



オルガン:オルガン講座受講者 おはなし:大塚直哉

【みんなのオルガン講座～Organ for ALL】講師:大塚直哉、ほか

第1回 4月29日(土)

第2回 11月予定

第3回 2007年1月予定

受講生募集

●触ってみようコース(各回30名程度)

オルガンに挑戦してみたい初心者の方のためのコース。

まずは触れてみることから始めましょう!

対象:どなたでも参加いただけます。 料金:無料

●コンサートコース(各回10名程度)

2007年3月17日(土)の「オルガン・ミニ・コンサート」への出演を目指す演奏指導コース。バッハの小品などを、ポジティブ・オルガンで弾いてみましょう!

対象:鍵盤楽器(ピアノ・オルガン・エレクトーン等)の経験が3年程度以上ある方(詳しくはお問い合わせ下さい)

1回から受講できます。ただし、コンサートで演奏するためには年間3回の受講が必要です。

料金:受講料は無料ですが、テキスト代を別途申し受けます。

《問合せ・申込み》

受講を希望される方は財団事業部にお申し込みください。

(TEL048-858-5506)

・触ってみようコース[第1回]／コンサートコース[第1回]

締切:共に4月22日(土)

【午後の室内楽】

2006年

7月22日(土) 東京交響楽団メンバーによる木管トリオ

12月16日(土) 東京交響楽団メンバーによる弦楽四重奏

埼玉会館ファミリー・クラシック

《親子で鑑賞できるプログラム》

ピアニスト仲道郁代さんの演奏とおはなしで贈るファミリー・コンサート。育児中の忙しいお母さんやお父さんにも小さなお子様と一緒にクラシック音楽を楽しんでいただけるコンサートです。

【公演日:12月10日(日)】



©谷古宇 正彦

熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストランド!

《親子で鑑賞できるプログラム》

夏休み、熊谷会館が楽しいオーケストラの国に大変身!音楽もの知り博士のアナウンサー朝岡聡さんと指揮者の飯森親範さんがナビゲートする、クラシック入門編です。

*詳しくはP21記載

Others 【その他】

公開対談「NINAGAWA 千の目」 &「talk・talk・talk」

(財)埼玉県芸術文化振興財団芸術監督の蜷川幸雄が各界気鋭アーティストたちを迎えてお話を聞く公開対談シリーズや、各分野の先端アーティスト達との鼎談など。

*P2、P15参照

劇場冒険ツアー

《親子で参加できるプログラム》

大好評の「劇場冒険ツアー」がこの夏も帰ってきます!普段は立ち入ることのできない劇場の秘密の場所や客席からは見えない舞台の裏側を、子どもたちと一緒に探検します。舞台技術を駆使して様々な世界を創造することのできる劇場の楽しさを、実際に見て触って体感してみませんか。

【公演日:7月下旬】



©加藤英弘

Outreach 【アウトリーチ】

劇場の外へ舞台芸術をとどけるプログラム

【音楽】MEET THE MUSIC ～アーティストが学校にやってくる!

クラシック音楽を子どもたちのもとへ。音楽家が県内の公立小学校・中学校を訪れ、子どもたちにクラシック音楽を間近で体験してもらう「MEET(ミート)」が2年目を迎えます。アーティストとのふれあいのなかで、音楽を愛する心を育てたいという願いを込めたこのプログラム、平成18年度の参加アーティストは国際的打楽器奏者の加藤訓子氏、金管五重奏団バズ・ファイブ等。年間10校で実施します。(平成17年度MEET THE MUSICより/皆野町立金沢小学校)



★このほかにも教育現場との協働プログラムに積極的に取り組んでいます。

SAITAMA GOLD THEATER

2006年4月、
彩の国さいたま芸術劇場 高齢者演劇集団
「さいたまゴールド・シアター」が動き始める！

年齢を重ねるということは、様々な経験を、

つまり深い喜びや悲しみや平穏な日々を

生き抜いてきたということの証でもあります。

その年齢を重ねた人々が、その個人史をベースに、

身体表現という方法によって新しい自分に出会うことは可能ではないか？

ということが、私が高齢者の演劇集団を創ろうと思った動機です。

私たちは、俳優教育を受けて身体表現者、つまり俳優になろうと思う人、

その可能性に賭けてみようと思う人を募集いたします。

原則として五十五歳以上の男女です。

その表現集団の名前を『さいたまゴールド・シアター』とします。

蜷川幸雄

この呼びかけに、日本全国から1000名を超える応募が寄せられた。（正確には、海外在住の方からの応募も複数あった。）

第1次審査（書類審査）、最終審査（オーディション、3月中旬実施予定）を経て、約20名からなる「さいたまゴールド・シアター」の活動が、いよいよ4月から始まる。1年後の彩の国さいたま芸術劇場での公演を目指して…。

活動内容

【概要】経験・未経験を問わず、55歳以上という様々な経験を生きた人々を対象に、画一化することのないプロフェッショナルな技術を持った舞台俳優の育成を目的としている。
また、蜷川幸雄を中心とした実践を通しての稽古を行い、古典劇や現代劇に必要な基礎的な俳優訓練を実施していく。
しかし、ここは単なる個人の育成を目標とした俳優養成所ではない。ひとつの集団として活動し、1年後には芸術劇場での公演を行うことができるまでの新しい形態の演劇集団の成立を目指している。

【内容】基本レッスン

●演出

蜷川幸雄等、講師となるそれぞれの演出家独自の方法で実践的に進めていく。（稽古場見学など）

●ヴォイス・ムーブメント

様々な戯曲に対しての基本的な声の出し方、体の基礎体力をつける。そして、自分の声や身体を発見していく。

●ダンス

ワルツなど、洋舞を踊れるようにする。また、ドレスの使い方なども指導する。

●日本舞踊

日舞を踊れるようにする。また、和服の着方、所作などを指導する

●特別レッスン（必要に応じて実施）

『殺陣』『座学』（時代考証など）

例：「シェイクスピア」（それぞれの戯曲の持っている時代背景など）、「衣装」（衣装に関する歴史、考証など）、「ヘアメイク」（メイクアップの技術の実践など）

講師陣

蜷川幸雄（主宰・演出担当）

やまものりこ（ヴォイス担当）

広崎うらん（ダンス担当）

井上尊晶（演出担当）

桜井久直（ムーブメント担当）

花柳輔太郎（日本舞踊担当）

講師陣

PROFILE

主宰・演出担当 蜷川幸雄

Y U K I O N I N A G A W A

演出担当

S O N S H O I N O U E

井上尊晶

1987年蜷川幸雄と出会い、以後、数多くの蜷川作品の演出助手を務める。2001年にSTUDIOコクーン・プロジェクト『カスパー』（ペーター・ハントケ作）で演出家デビュー。02年同プロジェクト『障子の国のティンカーベル』（野田秀樹作）、03年日生劇場『恐怖時代』（谷崎潤一郎作）演出、ニナガワカンパニーダッシュ『2003・待つ』構成・演出、『市村正親30周年リサイタル オモチャ箱』演出。05年シス・カンパニープロデュース『新編・吾輩は猫である』演出などがある。

ヴォイス担当

N O R I K O Y A M A M O T O

やまものりこ

竹内敏晴研究所から竹内スタジオに参加。ヴォイストレーナー野村洋子氏に師事。舞台演劇における発声・発音について、青年劇場・劇団民藝・人形劇団ブーク・劇団銅鑼などの劇団員への指導を行う。青年劇場付属養成所、昂演劇学校などでの初心者レッスンとともに、経験の多い俳優の個人レッスンも多く担当。2003年文化庁在外研修特別派遣によりロンドンで研修。イギリス演劇ののどに負担を掛けない声の感覚と、呼吸・からだと動きの感覚をあわせて、想いとつなげていくトレーニングを展開している。

ムーブメント担当

H I S A N A O S A K U R A I

桜井久直

医学博士。ダンスからボディワークまで、様々なムーブメントを統合して指導。感情と体の関係のスペシャリストであり、合気道4段、ピラティス公認教師でもある。97年より現代演劇協会にてムーブメント教師となり、同時に、プロの俳優のためのムーブメントクラスも開始。イギリスRADAや新国立劇場オペラ研修所などにてムーブメントを指導。02年劇団昂公演『転落』（村田元史演出）でムーブメント指導。03年昂サードステージ公演『マクベス』、04年同『ジュリエットたち』（松本永実子演出）にてムーブメントダイレクター。

ダンス担当

U R A N H I R O S A K I

広崎うらん

3歳よりモダンダンス、その後バレエ、コンテンポラリー、ジャズ、タップ、ヒップホップ、ソシアル、アルゼンチンタンゴなどを学ぶ。ダンサー、またタレントとしてドラマ、バラエティ、CM、ミュージカルなどに出演。1991年よりダンスパフォーマンス‘REVO’を主宰。演劇的な作品を展開する。近年はダンスクリエイターとして様々なフィールドで活躍。『近代能楽集』『お気に召すまま』（蜷川幸雄演出）、『ウィンザーの陽気な女房たち』（鴻上尚史演出）、『ベガーズ・オペラ』（ジョン・ケアード演出）、ユニクロCM振付など。

日本舞踊担当

S U K E T A R O H A N A Y A G I

花柳輔太郎

79年花柳流名取。80年花柳流師範。現在東京芸術大学専任講師。文化庁青少年芸術劇場、国立劇場主催公演、舞踊協会公演、NHK等舞踊公演に出演する一方、商業演劇にも舞踊家として振付・出演。海外公演も多く、日米舞台芸術交流ニューヨーク・ワシントン公演、エジンバラ国際演劇祭、ユーロバリアジャパン・フェスティバルでフランス、ベルギーの50都市を巡演。また、舞踊家のための新作を数多く手がけ、振付作品はすでに150を超える。92年文化庁芸術祭賞受賞。04年花柳寿応賞新人賞受賞。

※この他、必要に応じて、講師を招いて特別レッスンを行う。

～PICK UPでは紹介しきれなかった、3月から8月に発売される公演情報～

PLAY
4.21～
タイタス・アンドロニカス
英国ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー主催
「シェイクスピア・フェスティバル」正式招待作品



抱腹絶倒の中に、思わず涙する場面もあって、大好評のうちに閉幕した「間違いの喜劇」。その熱気も冷めないうちに、シェイクスピア作品中、最も凄惨と言われる悲劇「タイタス・アンドロニカス」が再演されます。現代にも通ずる復讐の連鎖を、真っ白な舞台で美しく見せた初演の舞台は大きな反響を呼びました。「間違いの喜劇」で感動の再会を果たした吉田鋼太郎、小栗旬親子が、今度は敵役として血で血を洗う報復劇を繰り広げます。シェイクスピアの本拠地、英国ストラットフォードで開催されるシェイクスピア・フェスティバルに、日本から唯一参戦することも決定。一層パワーアップした「タイタス・アンドロニカス」をどうぞお見逃し無く。

	4月	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	5月	1	2	3	4	5	6	7
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
13:00		◆	◆						◆	◆				◆	◆	◆	◆	◆	◆
14:00				休		◆	◆				休								
18:00		◆		演					◆			演	◆					◆	
19:00	◆			◆	◆		◆					◆							

◆◆ 下記アカデミーウィーク参照

Academy
Week
アカデミー・ウィーク 4月26日(水)～5月5日(金祝)
～シェイクスピアとタイタス・アンドロニカスへの知的好奇心を高める企画～

稽古場見学会
見学会日時:4月8日(土) 9日(日) 予定 各10名(約1時間を予定)
「タイタス・アンドロニカス」のチケットをご購入いただいたメンバーの方限定(1名のみ)でご招待。
はがきに住所・氏名・電話番号・会員番号・希望日時をご記入の上
〒338-8506 彩の国さいたま芸術劇場「タイタス・アンドロニカス」稽古場見学会まで。
締切3月25日(土)(応募者多数の場合は抽選となります。結果は当選通知の発送をもってかえさせていただきます。)
お問い合わせ:財団営業宣伝課 048-858-5507

シェイクスピア・バースデイ (The Day Shakespeare was Baptized)
日時:4月26日(水) 19:00公演(シェイクスピアの洗礼日)
夜公演カーテンコール後に15分程度を予定
内容:イギリスの風習に習って、シェイクスピアのバースデイにキャスト数人が輪になってソネット(詩)を詠むイベント。◆同公演日時分のチケットをお持ちの方はご参加いただけます。

スペシャル・アフタートークショー
日時:5月4日(木) 公演終演15分後くらいから約30分程度を予定
内容:出演者・吉田鋼太郎、小栗旬と翻訳家・松岡和子によるトークショー。
◆同公演日時分のチケットをお持ちの方はご参加いただけます。

◆4月21日(金)～5月7日(日)<20公演> ◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
◆演出:蛭川幸雄 作:W・シェイクスピア 翻訳:松岡和子
◆出演:タイタス・アンドロニカス:吉田鋼太郎 タモラ:麻実いろは エアロン:小栗旬
ラヴィニア:真中瞳 マーカス・アンドロニカス:壤晴彦 サターナイナス:鶴見辰吾 他
◆チケット(税込):**一般** S席9,000円 A席7,000円 B席5,000円
メンバーズ S席8,100円 A席6,300円 B席4,500円

【英国公演】 2006年6月16日(金)～24日(土) ロイヤル・シェイクスピア・シアター
2006年6月29日(木)～7月1日(土) シアター・ロイヤル・プリマス

CINEMA
5.6～
「天井桟敷の人々」
Les Enfants du paradis



本作品は、第二次世界大戦中のドイツ軍占領下のフランスで作られた映画史上に残る傑作です。19世紀のパリを舞台に純真なパントマイム役者バチスト、奔放に生きる役者ルメートル、犯罪者にして文学者のラスネールなどが、美女ガランスをめぐる巻き起こす恋と芸の青春群像絵巻です。

◆5月6日(土)、7日(日) 10:00/14:00/18:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
◆監督:マルセル・カルネ 脚本:ジャック・プレヴェール
美術:アレクサンドル・トロネール、レオン・バルザック 音楽:ジョゼフ・コジマ、モーリス・テリエ
◆出演:アルレッティ、ジャン＝ルイ・バロー、マリア・カザレス、ピエール・ルノワールほか
(1945年フランス 195分 白黒)
◆チケット(税込):全席自由 前売 一般1,000円 小中高生 800円 当日 各200円増
(各回完全入替制)
◆発売日:**メンバーズ** 3月25日(土) **一般** 4月1日(土)

CINEMA
6.10
「阿弥陀堂だより」



東京での生活に疲れたエリート女医と作家の夫という熟年夫婦が、長野の大自然の中で暮らし始め、様々な悩みを抱えた人々とのふれあいによって、徐々に自分自身を、そして生きる喜びを取り戻していきます。奥信濃の四季の美しさと共に見るものの心をきれいに洗い上げてくれるような作品です。

◆6月10日(土) 10:00/12:45/16:00/19:00 *12:45の上映終了後にゲストトークあり
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
◆監督・脚本:小泉堯史 原作:南木佳士 撮影:上田正治 音楽:加古隆
◆出演:寺尾聰 樋口可南子 北林谷栄 田村高廣 香川京子 小西真奈美 吉岡秀隆
井川比佐志ほか(2002年 東宝＝アスミック・エース 128分)
◆チケット(税込):全席自由 前売 一般1,000円 小中高生 800円 当日 各200円増(各回完全入替制)
◆発売日:**メンバーズ** 3月25日(土) **一般** 4月1日(土)

PLAY
7.9
平成17年度 彩の国落語大賞受賞者の会
彩の国さいたま寄席



平成17年度彩の国さいたま寄席にご出演いただいた中で、今後のさらなる活躍が期待される若手演者に贈られる『彩の国落語大賞』は、柳家三太楼師匠に決定いたしました。1月の高座では「初天神」の根多で、会場を爆笑の渦に巻き込み、多くのお客様にご好評をいただきました。その三太楼師匠の受賞を祝い、7月に再び彩の国さいたま寄席にご登場いただきます。またゲストには師にあたる、爆笑落語の雄・柳家権太楼師匠をお招きします。その他にも真打昇進を果たした柳家三三、新進二ツ目古今亭菊朗、太神楽の翁家勝丸など活きのいい若手演者も出演いたします。会場内は笑いの熱気に包まれること間違いなしです。存分にお楽しみください。

◆7月9日(日) 14:00開演(13:30開場) ◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
◆出演:柳家三太楼(彩の国落語大賞) 柳家権太楼(ゲスト) 柳家三三 古今亭菊朗 翁家勝丸 ほか
◆チケット(税込):**一般** 3,000円 **メンバーズ** 2,700円 ゆうゆう割引(学生・65歳以上) 2,000円
◆発売日:**メンバーズ** 4月2日(日) **一般** 4月8日(土)

PLAY
7.16
「勘九郎改め十八代目
中村勘三郎襲名披露」



今年の松竹大歌舞伎は「勘九郎改め十八代目中村勘三郎襲名披露」。五代目中村勘九郎は平成17年3月・4月・5月、歌舞伎座において、十八代目中村勘三郎を襲名。時代物、世話物、新作から舞踊まで、歌舞伎のあらゆるジャンルに熱心に取り組んでおり、立役から女形まで幅広く演じて充実した舞台を見せています。常に舞台と観客との関係を大切にしており、江戸の芝居小屋を再現した仮設劇場「平成中村座」での舞台や、野田秀樹脚本・演出による新作歌舞伎などで、新たな歌舞伎ファン層を広げています。

他に中村扇雀、坂東弥十郎、中村勘太郎、中村七之助などの出演で、熊谷会館の夏は大きな賑わいを見せること間違いありません。

◆7月16日(日) 開演 昼の部 12:15 夜の部 16:15 ◆埼玉県熊谷会館
◆出演:勘九郎改め中村勘三郎 中村扇雀 坂東弥十郎 中村勘太郎 中村七之助 他
◆演目:**昼の部** 一、本朝廿四孝 十種香 二、十八代目中村勘三郎襲名披露 口上
三、新古今演劇十種の内 身替座禅
夜の部 一、十八代目中村勘三郎襲名披露 口上
二、義経千本桜 木の實 小金吾討死 すし屋
◆チケット(税込):**一般** 特等席 6,000円 一等席 2,000円 一等学生席 1,000円
おためし席 1,000円 **メンバーズ** 特等席 5,400円
◆発売日:**メンバーズ** 5月11日(木) **一般** 5月14日(日)

MUSIC
8.5
熊谷会館ファミリー・クラシック
夏休みオーケストランド!



クラシック音楽の熱烈な愛好家として知られるアナウンサー朝岡聡さんのナビゲートでお届けするこのコンサートは、家族全員で楽しんでいただくクラシック音楽入門編です。東京交響楽団と正指揮者飯森親範さんの絶妙なパートナーシップで奏でる名曲の数々、そして2005年度の全日本学生音楽コンクール(ヴァイオリン部門中学校の部)優勝の福田悠一郎君が埼玉県出身の若きソリストとして颯爽と登場します。子どもたちが指揮者になってオーケストラを指揮したり、リコーダーと歌でオーケストラと共演できるコーナーなど、通常のコンサートにはない特別な企画も満載です。この夏、「クラシック音楽は楽しい!」を家族全員で体感していただけることでしょう。

◆8月5日(土) 15:00開演(14:30開場) 17:00終演予定 ◆埼玉県熊谷会館
◆出演:ナビゲーター＝朝岡聡、指揮＝飯森親範、ヴァイオリン＝福田悠一郎 管弦楽＝東京交響楽団
◆演目:モーツァルト／歌劇「フィガロの結婚」序曲
小室昌広／ディズニーのメロディーによる管弦楽入門 サラサーテ／カルメン幻想曲
ビゼー／歌劇「カルメン」より前奏曲 ラヴェル／ボレロ
●指揮者に挑戦! ●オーケストラと一緒に「ビリーヴ」を演奏しよう!(リコーダーや歌で参加して下さい)
◆チケット(税込):**一般** S席 大人 3,000円 高校生 2,000円
こども 1,500円(親子セット:こども1,000円) A席 大人 2,500円 高校生 1,500円
こども 1,000円(親子セット:こども500円) **メンバーズ** S席 大人 2,700円
*親子セット:大人十こどもで、こども料金が「親子セット価格」になります。*3才未満のお子さまは入場できません。
◆発売日:**メンバーズ** 4月18日(火) **一般** 4月23日(日)



トリシャ・ブラウン・ダンス・カンパニー

◆3月24日(金) 19:30/25日(土) 15:00/26日(日) 15:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
◆チケット(税込):一般 S席7,000円 A席5,000円 学生A席2,000円 メンバース S席6,300円 A席4,500円
◆演出:『アキュムレーション ウィズ・トーキング・プラス・ウォーターモーター Accumulation with Talking plus Watermotor』(映像上映)
監督:ジョナサン・デミ 振付:トリシャ・ブラウン 制作:1979年
『セット・アンド・リセット Set and Reset』 振付:トリシャ・ブラウン 音楽:ローリー・アンダーソン 美術:ロバート・ラウシェンバーグ 初演:1983年
『プレゼント・テンス Present Tense』 振付:トリシャ・ブラウン 音楽:ジョン・ケージ 美術:エリザベス・マーレイ 初演:2003年
『グルーヴ・アンド・カウンタームーヴ Groove and Countermove』 振付:トリシャ・ブラウン 音楽:デイヴ・ダグラス 美術:テリー・ウィンタース 初演:2000年



タイタス・アンドロニカス 英国ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー主催「シェイクスピア・フェスティバル」正式招待作品

◆4月21日(金)～5月7日(日)<20公演> ◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール ◆演出:蛭川幸雄 作:W・シェイクスピア 翻訳:松岡和子
◆出演:タイタス・アンドロニカス:吉田鋼太郎 タモラ:麻実れい エアロン:小栗旬 ラヴィニア:真中睦 マーカス・アンドロニカス:壤晴彦 サターナイナス:鶴見辰吾 他
◆チケット(税込):一般 S席9,000円 A席7,000円 B席5,000円 メンバース S席8,100円 A席6,300円 B席4,500円
一部の券面に開場時間の誤りがありました。訂正してお詫びいたします。 誤:1時間前→正:30分前



彩の国シネマスタジオ「輝ける青春」La meglio gioventù

◆4月8日(土)/9日(日) 両日も開演10:30(終演17:40) ※13:30～14:30は休憩になります ◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
◆監督:マルコ・トルリオ・ジョルダーナ ◆出演:ルイジ・ロ・カーショ アレッシオ・ボーニ アドリアーナ・アスティ ソニア・ペルガマスコ
ファブリツィオ・ジフーニ マヤ・サンサ ジャスミン・トリンカ ほか(2003年 イタリア 366分)
◆チケット(税込):全席自由 一般 3,000円 メンバース 2,500円(このチケットは前売りのみで、当日券はありません。)*詳しくは財団チケットセンターまでお問い合わせください。



志の輔の会 ～彩の国さいたま寄席

◆4月11日(火) 19:00開演(18:30開場) ◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
◆出演:立川志の輔 林家二楽 立川志の吉 ほか
◆チケット(税込):一般 3,500円 メンバース 3,000円 ゆうゆう割引(学生・65歳以上)2,500円

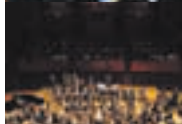


◆5月13日(土) 14:00/19:00開演(開場は開演の30分前) ◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
◆構成・映像・振付:近藤良平 出演:コンドルズ
◆チケット(税込):一般 前売4,000円 当日4,500円 学生2,000円 メンバース 前売3,600円 当日4,050円



アンサンブル・ウィーン＝ベルリン 世界最高の木管アンサンブルによる至福のモーツァルト

◆5月16日(火) 19:00開演 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール ◆出演:フルート/ヴォルフガング・シュルツ(ウィーン・フィル首席奏者) オーボエ/ハンスイェルク・シェレンベルガー(元ベルリン・フィル首席奏者、ベルリン・ハイドン・アンサンブル創立者) クラリネット/ノーベルト・トイブル(ウィーン・フィル首席奏者)
ファゴット/ミラントウルコヴィッチ(元ウィーン交響楽団、ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス首席奏者) ホルン/シュテファン・ドール(ベルリン・フィル首席奏者)
◆曲目:〈オル・モーツァルト・プログラム〉モーツァルト アダージョとアレグロ へ短調 K.594、幻想曲 へ短調 K.608、アンダンテ へ長調 K.616 他
◆チケット(税込):一般 S席4,500円 A席3,500円 学生席1,500円 メンバース S席4,050円 A席3,150円



フェドセーエフ指揮 モスクワ放送交響楽団 ピアノ/小山実稚恵 2年ぶりの夢の共演!

◆5月27日(土) 17:00開演 ◆埼玉会館 大ホール ◆指揮/ウラディーミール・フェドセーエフ ◆管弦楽/モスクワ放送交響楽団 ピアノ/小山実稚恵
◆曲目:ラフマニノフ ピアノ協奏曲第2番 へ短調 op.18/チャイコフスキー 交響曲第6番 口短調 op.74「悲愴」
◆チケット(税込):一般 S席8,000円 A席6,000円 B席4,000円 学生席2,000円 メンバース S席7,200円 A席5,400円 B席3,600円



源氏語り54帖 華麗なる翳り

◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール ◆出演:幸田弘子(朗読)、三田村雅子(解説/フェリス女学院大学教授)
◆第31回 若菜下(わかなげ)① 7月8日(土) 第32回 若菜下(わかなげ)② 9月9日(土)
第33回 柏木(かしわぎ) 10月1日(日) 各回とも14:00開演(13:30開場)
◆チケット(税込):全席指定 一般 一回券2,500円 三回連続券6,600円



「ピアニスト100」2006年シリーズ No.91～No.100

◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆9回連続券(No.91～No.99)
S席2,4000円 A席1,7000円
※連続券は4月7日(金)まで販売
◆No.95～No.97の単独券発売日
メンバース 6月10日(土) 一般 6月17日(土)



No.91 アリス＝紗良・オット(ドイツ)

◆4月8日(土) 16:00開演
◆一般 S席3,000円/A席2,000円
◆学生 S席2,000円/A席1,000円
◆メンバーズ S席2,700円



No.92 ホワン・チューファン(中国)

◆5月20日(土) 16:00開演
◆一般 S席3,000円/A席2,000円
◆学生 S席2,000円/A席1,000円
◆メンバーズ S席2,700円



No.95 アンティ・シーララ(フィンランド)

◆9月10日(日) 15:00開演
◆一般 S席3,000円/A席2,000円
◆学生 S席2,000円/A席1,000円
◆メンバーズ S席2,700円



No.98 アルカディ・ヴォロドス(ロシア)

◆12月9日(土) 16:00開演
◆一般 S席5,000円/A席4,000円
◆学生 S席3,000円/A席2,000円
◆メンバーズ S席4,500円/A席3,600円



No.93 ケマル・ゲキチ(クロアチア)

◆6月17日(土) 16:00開演
◆一般 S席4,000円/A席3,000円
◆学生 S席2,000円/A席1,000円
◆メンバーズ S席3,600円/A席2,700円



No.96 シブリアン・カツァリス(フランス)

◆10月21日(土) 16:00開演
◆一般 S席5,000円/A席4,000円
◆学生 S席3,000円/A席2,000円
◆メンバーズ S席4,500円/A席3,600円



No.99 レイフ・オヴェ・アンスネス(ノルウェー)

◆2007年2月10日(土) 16:00開演
◆一般 S席4,000円/A席3,000円
◆学生 S席2,000円/A席1,000円
◆メンバーズ S席3,600円/A席2,700円



No.100 第6回 浜松国際ピアノコンクール最高位受賞者

◆2007年3月 ※コンクール本選後に決定
◆一般 S席3,000円/A席2,000円
◆学生 S席2,000円/A席1,000円
◆メンバーズ S席2,700円

チケットの購入方法について

窓口 販売

各会場(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)チケット販売窓口にて、3会場のチケットをお買い求めいただくことができます。

窓口営業時間

彩の国さいたま芸術劇場 10:00～19:00(休館日を除く)
埼玉会館 10:00～19:00(休館日を除く)
熊谷会館 10:00～17:00(休館日を除く)

電話 予約&販売

チケットの電話でのご予約は、財団チケットセンターにて承っております。
※埼玉会館、熊谷会館ではチケットの電話予約は行っておりません。

チケットセンター営業時間

財団チケットセンター
048-858-5511 10:00～19:00(休館日を除く)

インターネット販売

ホームページ(<http://www.saf.or.jp/>)から、空席状況の検索、チケットの購入ができます。

インターネット営業時間

一般発売日の10:00から公演日前日19:00まで

チケット代の支払い方法

■窓口 現金、クレジットカード

■電話 現金、クレジットカード、コンビニエンスストア振込

■インターネット クレジットカードのみ

・コンビニエンスストア振込でのお支払いの場合、入金確認後、チケットを発送いたします。
・お支払いいただく代金は、チケット代金十セキュリティバック代(400円)になります。
・各館で、電話予約済みのチケットをご精算、お引き取りいただけます。
・当日券のご精算にもクレジットカードがご利用いただけます。
■メンバーズは口座引落になります。

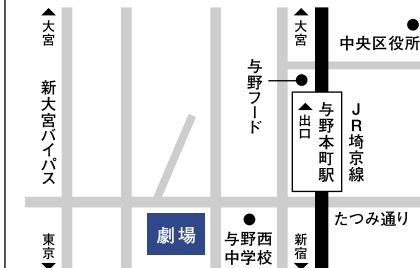
セット券、連続券、学生券などの割引サービスについて

●セット券・連続券は、原則として開催館のみ、前売りのみ(開催日の前日まで)のお取り扱いです。
●学生券をご利用の際は、チケット購入時・公演当日とも学生証をご持参ください。
●各種チケット割引サービスは併用できません。

ご注意及びお願い事項

●チケット発売初日は、1回あたりのご購入・ご予約の枚数を制限させていただく場合がございます。また、お電話でご予約の場合、お座席のご案内を行っておりません。ご了承ください。
●ご購入いただいたチケットのキャンセル、交換、再発行は一切できませんのでご注意ください。
●チケット紛失の際は、各公演の主催者にお問い合わせください。

彩の国さいたま芸術劇場



〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515

電車でのアクセス JR埼京線与野本町駅(西口)下車 徒歩7分
または①番乗り場からバス
新宿から快速で27分、各駅停車で40分
大宮から快速で4分、各駅停車で6分(通勤快速は停車しません。)
駐車場 155台 最初の1時間無料 それ以降は300円/時間
※駐車台数に限りがあり、劇場周辺にも一般の駐車場はございますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

『サポーター会員』入会のご案内

財団法人埼玉県芸術文化振興財団では、設立以来10年間、事業活動を通じて県民の皆さまをはじめとして舞台芸術を愛する多くの方々に優れた作品を数多くご提供してまいりました。一方、自ら舞台芸術を制作される県民の皆さまに対しても、日々の稽古の場、練習の場として、またその成果の発表の場として様々な応援をさせていただいております。彩の国さいたま芸術劇場をはじめ、埼玉会館、熊谷会館の企画・運営につきましては、主として埼玉県から大きな支援を受けておりますが、さらに充実した活動を行うためには、多くの法人・篤志家の方々の財政面でのご協力を必要といたしております。埼玉県の芸術・文化活動を推進してゆくうえで、県民の皆さまの暖かいご支援を賜りたく、2005年4月から『サポーター会員制度』を導入いたしました。すでに、多くの県内企業の方々にご賛同いただき、ご入会いただいております。

■年会費について

1. 特別サポーター会員 年会費(1口) 300万円(消費税込)
2. サポーター会員 年会費(1口) 10万円(消費税込)
*ご希望により何口でも申し込みにいただけます。有効期限は、入会月から1年間となります。

■『サポーター会員』の特典

●特別サポーター

(1) 劇場サポーターボードへのロゴ・社名掲出
(2) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」、ホームページへの社名掲出
(3) アーティストとのレセプション・パーティへのご招待
(4) 御社主催コンサート・ワークショップなどの主催(出演料別途)
(5) 財団主催公演のご招待(全公演2席程度)
(6) 自主事業公演チケットの20%割引販売
(7) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」定期購読

●サポーター(法人・個人)

(1) 劇場サポーターボードへの社名掲出
(2) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」、ホームページへの社名掲出
(3) 財団主催公演のご招待(1口10万円につき3万円程度の特定公演にご招待)
(4) 自主事業公演チケットの20%割引販売
(5) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」定期購読

■サポート企業一覧(50音順 2月末現在)

アサヒ印刷(株)/FM NACK5/(株)エフテック(株)オメガム/金井大道具(株)/(株)亀屋カヤバシステム マシナリー(株)クレディ・アグリコル アセットマネジメント(株)(有)香山壽夫建築研究所/(有)齋賀設計工務埼玉新聞社/埼玉トヨタ自動車(株)/埼玉りそな銀行JA/JA埼玉県信連/(株)十萬石 ふくさや(株)タムロン/東京ガス(株)東京電力(株)埼玉支店/東芝ライテック(株)(株)テレビ埼玉ミュージック/日本データコム(株)パシフィックアートセンター/(株)ビルメン武州ガス(株)/(株)松本商会/武蔵野銀行森平舞台機構(株)/リズム時計工業(株)(株)八木橋/(株)与野フードセンター

埼玉会館



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4
電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477

電車でのアクセス JR京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分
上野駅から各駅停車で27分 大宮駅から各駅停車で8分
駐車場 39台(うち車イス専用駐車場2台) 300円/時間 高さ2mまで
※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

(財)埼玉県芸術文化振興財団
メンバーズ特典

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館共通のメンバーズに入会すると、「便利」で「楽しい」特典がもれなく付いてきます。

年会費:2,000円

メンバーズ料金

財団主催公演で3,000円以上のチケットは10%OFF

財団情報誌

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館で行われる公演情報が掲載されている、情報誌がお手元に届きます。

優先予約

一般発売日より早く、チケットをご予約いただけます。

プレオーダー

人気公演はメンバーズの優先予約に先駆けてプレオーダー。
※指定席の場合、お席は抽選になります。

レストランでの割引

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館のレストランでのお食事が2名様までが10%OFF。

ポイント制度

チケットを購入するとポイントが貯まります。貯まったポイントはチケットと交換することができます。※チケット購入金額10円につき1ポイント。1ポイント1円にて換算されます。

キャッシュレス

チケット代金、年会費のお支払いは、ご登録いただいた口座からの口座引落になります。

チケットの安心無料送付

ご購入いただいたチケットは、セキュリティバックにてお届けいたします。

その他

ジョン・レノン・ミュージアム(TEL 048-601-0009)への入場料金が割引になります。

大人 1,500円→1,300円
高大生 1,000円→800円
小中学生 500円→400円

表紙 コンドルズ 「トップオブザワールド」©HARU

裏表紙 彩の国シェイクスピア・シリーズ 第13弾
「タイタス・アンドロニカス」©高嶋ちぐさ



熊谷会館



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2
電話:048-523-2535 ファックス:048-523-2536

電車でのアクセス JR高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分
大宮駅から37分

自動車でのアクセス 関越自動車道東松山インターより16Km
※無料駐車場あり。ただし、地方庁舎と合同の駐車場なので、催事によっては駐車できない場合もあります。ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。



<http://www.saf.or.jp/>

CONTENTS

- 02 NINAGAWA 千の目 近藤良平×蜷川幸雄
- 06 PICK UP コンドルズ 埼玉スペシャル公演2006
- 08 PICK UP ヤン・ファール 『主役の男が女である時』
- 10 PICK UP 彩の国さいたま芸術劇場 video dance 2006
- 13 PICK UP フェドセーエフ指揮
チャイコフスキー記念モスクワ放送交響楽団
ピアノ／小山実稚恵
- 14 PICK UP アンサンブル・ウィーン＝ベルリン
- 16 PICK UP Communication 普及教育事業
- 18 さいたまゴールド・シアター
- 20 EVENT INFORMATION
- 22 EVENT CALENDAR